

平成30年度

弘前大学男女共同参画推進室
事業報告書



弘前大学
男女共同
参画推進室
Hirosaki University

弘前大学男女共同参画推進室事業報告書

目次

ごあいさつ	2
弘前大学の男女共同参画の現状	5
実施体制	7
実施事業の内容と成果	
1. システム改革	
女性研究者の応募・採用促進	8
研究リーダー力向上支援	9
女性研究者懇談会	10
女性活躍推進異業種交流会「hirosaki smart project」	11
2. 両立支援	
子育て・介護中の研究者への研究支援員配置	12
託児利用料補助（学会参加時、休日勤務時、病児・病後児）	12
3. 次世代育成	
女子学生による理系女子進路相談会	13
児童生徒を対象とした裾野拡大	13
女性研究者パネル・ポスター展	14
4. 意識啓発・情報発信	
男女共同参画トップセミナー	15
北東北国立3大学男女共同参画シンポジウム	15
さんかくカフェ	16
学生を対象としたワークショップ	17
次世代育成サポーター養成講座への学生派遣	17
「大学等における男女共同参画推進セミナー」等への職員派遣	18
あおもり女性活躍推進協議会	20
ホームページ、さんかくつうしん	20
資料 平成30年度 男女共同参画推進室 主な事業一覧	21

ごあいさつ



国立大学法人 弘前大学 学長
佐藤 敬

今年、文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」は6年の事業期間の後半を迎えることになります。これまでの取組については、代表機関の岩手大学をはじめとする各機関の協力の下、順調に進んできたと自己評価していますが、当然のことながら、昨年のヒアリングを経た中間評価を真摯に受け止める必要があります。

この間、弘前大学において男女共同参画の取組が進展してきたことは間違いありません。女性教員比率の向上、幹部事務職員への女性の登用や、女性教授が不在であった自然科学系学部に女性教授が相次いで誕生したことなどがその主なものです。この事業に参加できたことが大きな力となったと確信しています。

しかしながら、弘前大学の状況はいまだ満足すべきものではなく、“ダイバーシティ実現”に向けて、多くの課題が残っていると認識しています。今後の3年間、さらにはその先を含め、多様性のある教育研究の場を実現するための歩みを着実に続けていかなければなりません。



理事（社会連携担当）
石川 隆 洋

弘前大学は、学長のリーダーシップの下、性別にかかわらず学びやすく働きやすい研究環境の実現に向けた取組を行っています。平成30年度は、平成28年度から実施している文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」事業の中間総括を行う年であり、その取組を加速させた年でした。弘前大学男女共同参画推進基金による「女性教員基盤整備等スタートアップ経費支援」と「面接時交通費支援」や、ダイバーシティレポート制度（試行）とプロモーションメンター制度（試行）を引き続き実施するとともに、男女共同参画トップセミナーや研究リーダー力向上支援セミナーのほか、弘前大学が主催校となった北東北3大学連携によるシンポジウムの開催等、男女共同参画推進に向けた様々な取組を実施しました。また、弘前大学が事務局を務め「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」事業の参加機関にも位置付けられる「あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」会議において、地域における女性研究者の研究活動支援や育成等を連携して推進するための意見交換を行っており、牽引型事業代表機関である岩手大学担当理事から同ネットワークへの期待感が示されました。平成30年10月に実施された科学技術人材育成費補助事業中間評価面接審査においても、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の取組は高く評価していただいたと伺っています。

平成31年度は、弘前大学の第3期中期目標・中期計画（平成28年度～33年度）に掲げた女性教員の採用・在職比率及び上位職への女性登用に係る目標達成に向け、これまでの取組を一層加速させるとともに、弘前大学男女共同参画推進基金による取組として、弘前大学の女性研究者を研究代表者とする共同研究支援することとしています。

今後ともワーク・ライフ・バランスに配慮した環境整備や次世代育成支援対策、ジェンダーバランス改善等の取組により、男女共同参画を推進したいと思いますので、学内外の皆様のご理解とご協力をお願いします。



男女共同参画推進室長
安川 あけみ

学生時代を女子大で過ごし、女性ばかりの環境を少しも不思議に思いませんでした。化学系の職場に就職し、ほとんどが男性である職場を全く奇異に感じませんでした。そんな私が男女共同参画推進室長の任に就いて、実験用白衣をスーツに着替え、様々な講演を聴く機会を得ました。そして、社会における女性の不平等や不自由の現実を目の当たりにしたのです。

「同じ演奏なのに、演奏者が男性だと上手に聞こえる？」無意識の偏見です。無意識の偏見は「無意識」なので当人は気づきません。「自分は偏見を持っているかもしれない」と感じたら、それはもう「無意識」ではないのですから。無意識の偏見を持っている人は100%「私は偏見を持っていない」と自己分析しています。あなたは？「本学の女性研究者の比率は部分的に低くないですか？」なるほど、高校の理系クラスは確かに女性が少ないけれども、これほどではない……。自身の研究テーマと全く異なる分野だからこそ、私にはその情報のどれもが目から鱗の新鮮さを持ち、胸に響くものがありました。これまで男女共同参画に意識の高くなかった人たちへの啓蒙も私の役目だと思っています。

本学の理系分野の部局において、女性比率は確かに高くはありませんが、本学は決して採用時に男性を優遇している訳ではありません。なぜなら………残念なことに、本学の公募に応募して下さる女性研究者は多くありません。特に、理系分野では男性に比べて非常に少ないと言わざるを得ません。だからこそ、本学は女性研究者に広く広く門戸を開いています。性別等にかかわらず誰もが能力に応じて公平に職を得られ、活躍でき、多様性を認め合う大学であるために、当推進室では、人事での平等性の検証や、働きやすい職場環境の整備に努めてまいりました。一定の成果を上げていると自負していますが、いまだ充分とは言えず、一層の充実を目指して今後も様々な取り組みを実施していく所存です。

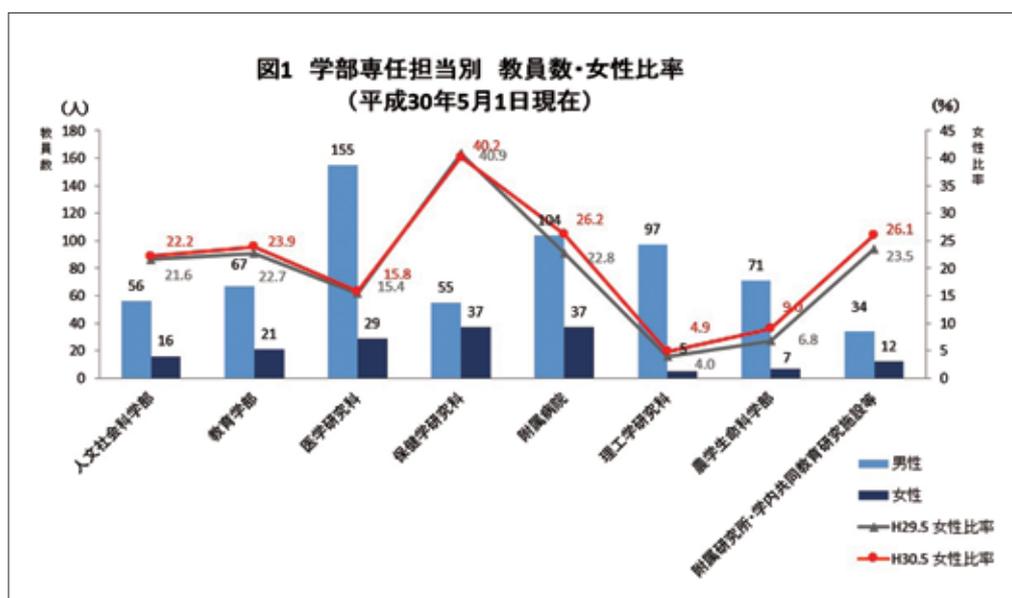
学内外の皆さまに、これまでのご理解とご協力を深く感謝申し上げますと共に、今後もさらなるご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

弘前大学の男女共同参画の現状

2018年5月1日現在の本学教職員総数は1,958名（他に学長・理事・監事等）で、そのうち女性は918名（46.9%）である。大学教員（助手を含む）は802名、うち女性は163名（20.3%）、附属学校園教員は97名、うち女性は50名（51.5%）である。事務職員・技術職員等（医学部附属病院を除く）は290名、うち女性は92名（31.7%）、医学部附属病院の事務職員・技術職員等は769名、うち女性613名（79.7%）である。

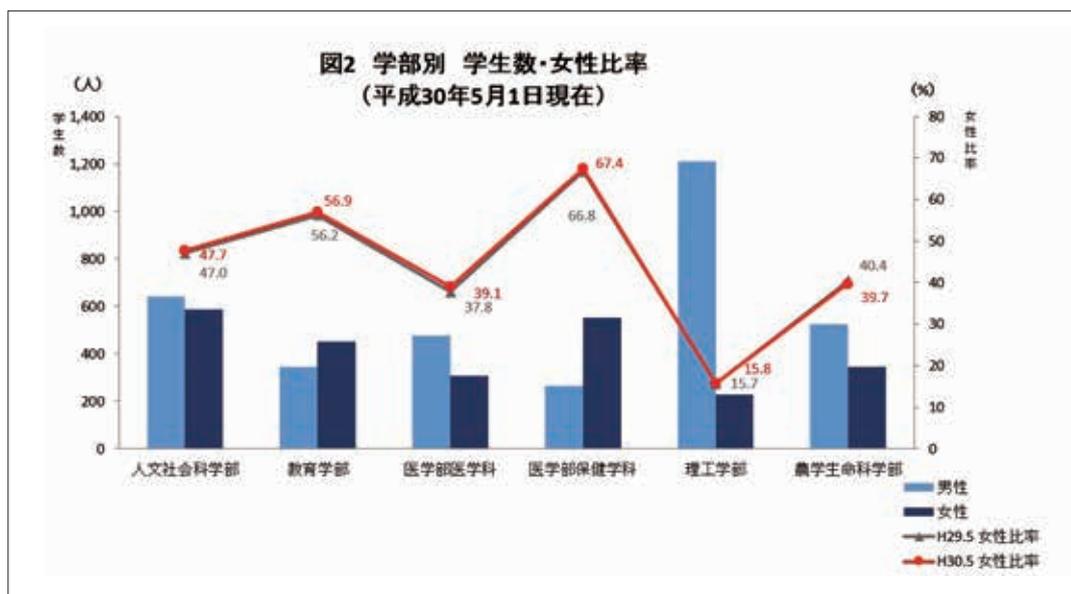
2017年5月1日時点と比較すると、大学教員で女性比率が0.9%増加し、附属学校園教員と事務職員・技術職員等（医学部附属病院を除く）は、それぞれ0.1%、0.3%減少、附属病院の事務職員・技術職員等は0.2%増加した。さらに、管理職に占める女性比率は、役員（非常勤を除く）16.7%、事務系職員12.5%である。

大学教員における女性比率を昨年度と比較し、増加したのは人文社会科学部（+0.6%）、教育学部（+1.2%）、医学研究科（+0.4%）、附属病院（+3.4%）、理工学研究科（+0.9%）、農学生命科学部（+2.2%）、附属研究所等（+2.6%）であった。保健学研究科は、0.7%減少した。教員全体でみると、女性比率20.3%で、昨年度より0.9%増加した。



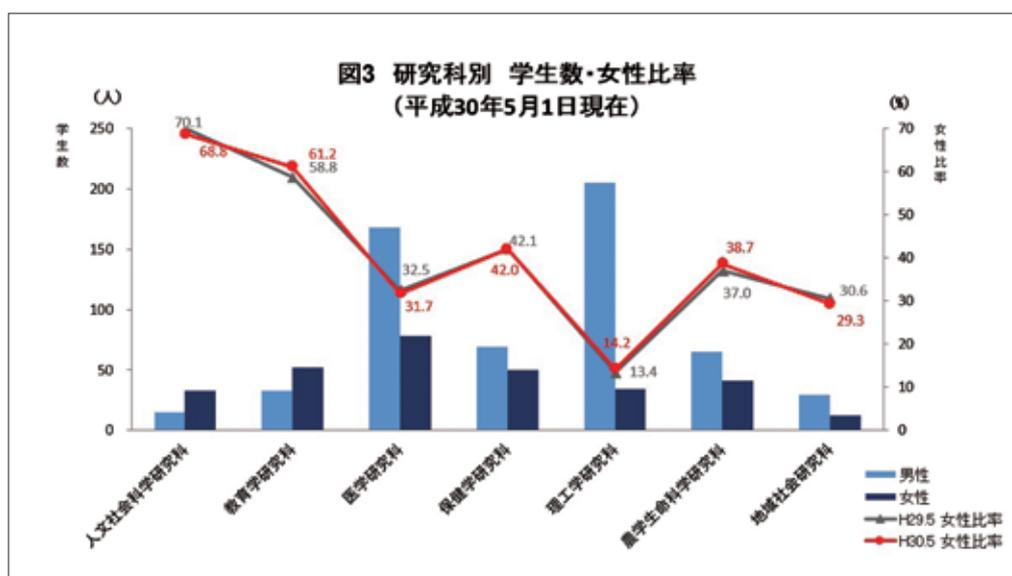
学部学生の総数5,930名のうち女性は2,467名（41.6%）である。学部ごとにみると、女性比率の高い順に、医学部保健学科551名（67.4%）、教育学部453名（56.9%）、人文社会科学部586名（47.7%）、農学生命科学部345名（39.7%）、医学部医学科305名（39.1%）、理工学部227名（15.8%）となる。

昨年度と比較すると、女性比率は全体で0.7%減少した。学部ごとでは、医学部医学科（+1.3%）、人文社会科学部（+0.7%）、教育学部（+0.7%）、医学部保健学科（+0.6%）、理工学部（+0.1%）で増加し、農学生命科学部（-0.7%）で減少した。



大学院生の総数は882名、そのうち女性は300名（34.0%）である。学部学生に比べて女性比率は低くなっている。研究科ごとにみると、女性比率の高い順に、人文社会科学研究科33名（68.8%）、教育学研究科52名（61.2%）、保健学研究科50名（42.0%）、農学生命科学研究科41名（38.7%）、医学研究科78名（31.7%）、地域社会研究科12名（29.3%）、理工学研究科34名（14.2%）となる。

昨年度と比較すると、女性比率は全体で1.4%増加した。研究科ごとでは、教育学研究科（+2.4%）、理工学研究科（+0.8%）、農学生命科学部（+1.7%）で増加し、人文社会科学研究科（-1.3%）、医学研究科（-0.8%）、保健学研究科（-0.1%）、地域社会研究科（-1.3%）で減少した。

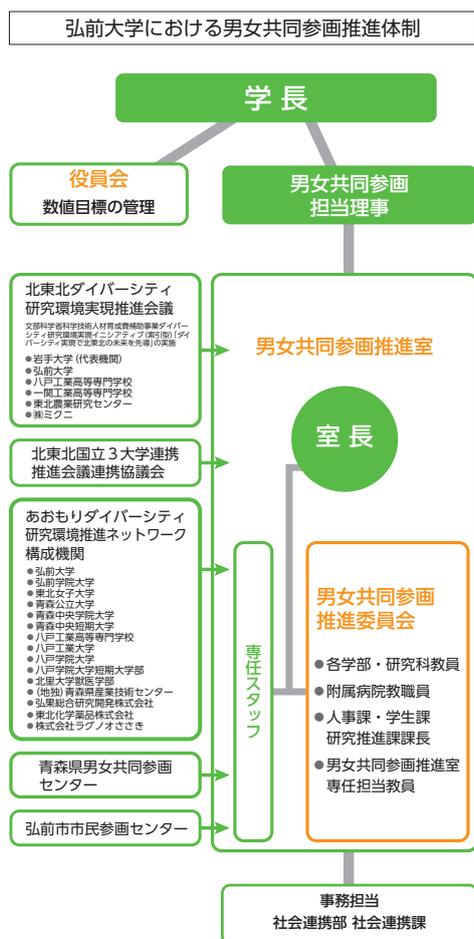


実施体制

役員会が重要事項を審議・決定し、男女共同参画推進室長が委員長を務める男女共同参画推進委員会が具体的な事業を企画・審議した。男女共同参画推進委員会は、各学部・研究科、医学部附属病院、総務部、総務部人事課、学務部学生課、研究推進部研究推進課の20名の室員から構成される。男女共同参画推進室は、学長直属の組織として弘前大学管理運営規則に定められ、専任担当教員と事務補佐員（社会連携部社会連携課）を置き、各種事業を実施した。

以上の学内の実施体制に加えて、引き続き、岩手大学を代表機関とする文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の実施組織である北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議、同会議運営委員会に参加した。

また、平成29年度に本学が中心となり新設された「あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」も、活動を継続した。本ネットワークは、情報・意見交換や各機関が実施する事業への相互参加等の連携を通じて、本学のみならず地域のダイバーシティ研究環境整備を推進することを目的とし、青森県内の15機関（10大学、1工業高等専門学校、1公設試験研究機関（4部門13研究所）、3企業）で構成される。



平成30年度 男女共同参画推進委員会 名簿

役職等	氏名	所属等
室長	安川 あけみ	教育学部教授
副室長	藤崎 浩幸	農学生命科学部教授
	三浦 新	総務部長
室員	近藤 史	人文社会科学部准教授
	柿崎 育子	医学研究科准教授
	北宮 千秋	保健学研究科教授
	小島 佳也	医学部附属病院臨床検査技師長
	銭谷 勉	理工学研究科教授
	日景 弥生	教育学部教授
	山下 梓	男女共同参画推進室助教
	庄司 聡	総務部人事課長
	橋本 美佐子	学務部学生課長
	三上 徹	研究推進部研究推進課長
	大倉 邦夫	人文社会科学部准教授
	松本 大	教育学部准教授
	藤井 穂高	医学研究科教授
	七島 直樹	保健学研究科講師
	斉藤 まなぶ	医学部附属病院講師
	成田 明子	理工学研究科准教授
笹部 美知子	農学生命科学部准教授	

プロモーションメンター制度（試行）は、本学の女性研究者が教育・研究・管理運営等にかかる現状や課題等を相談できる体制を整備することにより、本学における女性研究者の上位職への登用促進を図ることを目的とするもので、平成29年度に男女共同参画推進委員会です承された。ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の女性研究者を研究代表者とする共同研究支援事業に代表者として採択された本学の教員を対象に、理事と所属する学部・研究科の長の2人をプロモーションメンターとして配置するものである。プロモーションメンターは、教育、研究、管理運営等に係るマネジメント力向上に向けた助言を行うとともに、研究環境の現状を把握し、当該女性研究者が昇任または上位職に就くためのシステム改革を積極的に行う。平成30年度は、6名の女性研究者に対し、プロモーションメンターによる面談が行われた。

○研究リーダー力向上支援

女性研究者の研究リーダー力向上支援の取組として、女性研究者を研究代表者とする共同研究支援事業、研究リーダー力向上支援セミナーを行った。

女性研究者を研究代表者とする共同研究支援

支援期間：平成30年7月2日～平成31年3月31日

被支援者：代表者6名（新規2件、継続4件） 共同研究者19名（うち女性12名、男性7名）

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の一環として、平成30年度も引き続き、本学を含む連携機関の女性研究者による共同研究を支援した。本事業は、本学を含む連携機関や北東北地域の女性研究者の研究力・リーダー力・マネジメント力の向上を図り、上位職登用の促進につなげるとともに、当該領域・分野の研究の深化に寄与することを目的とするものである。

平成30年度は、教育学部、医学研究科、保健学研究科、農学生命科学部の6名の研究代表者を含む本学の教員のべ25名を支援した。本事業による研究概要や成果は、岩手県盛岡市で開かれた北東北女性研究者研究・交流フェア（平成30年9月19日）や八戸工業高等専門学校で開かれた研究交流会（平成31年2月21日）、各研究者が所属する学会等で発表された。

研究リーダー力向上支援セミナー

実施日時：①平成31年1月31日 15時30分～17時

②平成31年2月20日 13時～14時

会 場：①弘前大学創立50周年記念会館 岩木ホール

②弘前大学総合教育棟 310講義室

参 加 者：①36名 ②26名

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の一環として、女性研究者の研究リーダー力向上を支援する目的からセミナーを2回開催した。

第1回は、大隅典子先生（東北大学副学長（広報・共同参画担当）、医学部・医学系研究科教授）を講師にお迎えし、「女性研究者の応援団として：シンデレラ症候群からの脱却」と題して、東北大学における男女共同参画推進の取組や、無意識の偏見等について講演をいただ



いた。

参加者アンケート（回答者28名）では、20名が「大変参考になった」、6名が「参考になった」と評価し（2名は無回答）、「白馬の王子様症候群というお話が印象的だった。東北大の状況、日本のunpaid workとpaid workの話など大変興味深かった」「scientistとしての大隅先生のお話は、とても心に響くものだった。女性リーダーとして考えなければならないこと、後進の育成に際して意識しなければならないこと等々、事務職員の立場としてもとても参考になった」等の感想があった。



第2回は、人文社会科学部学務委員会との連携により実施した。北仲千里先生（広島大学ハラスメント相談室准教授）を講師にお迎えし、「研究リーダーのハラスメントマネジメントスキル」と題して、各種ハラスメントのとらえ方や問題へのアプローチ等について、事例を用いたグループワークを踏まえて講演をいただいた。

参加者アンケート（回答者24名）では、17名が「大変参考になった」、5名が「参考になった」と評価し（2名は無回答）、「今まで参加した同テーマの研修の中では、要点もわかりやすく、まとまっておもしろかった」「後半のケース例の具体的対応案のお話を、ゆっくり伺いたかった」「ケーススタディがあって自ら考える時間がありよかった。1時間では短いように感じた」等の感想があった。

いずれのセミナーについても、講師の了承のもと、学内及び補助事業連携機関に対象を限定して動画を配信した。

○女性研究者懇談会

日 時：平成30年12月4日 12時～13時

会 場：弘前大学創立50周年記念会館 会議室1

参加者：16名（うち女性研究者・大学院生10名、学長・理事等3名、陪席3名）

さまざまな分野や職階、ライフステージ等の本学の女性研究者間のネットワーク構築を支援するとともに、女性研究者の生の声を聴き今後の事業にいかしていくことを目的として、平成29年度に引き続き、女性研究者懇談会を開催した。女性研究者・大学院生10名のほか、佐藤敬学長、石川隆洋理事、安川あけみ男女共同参画推進室長等が参加した。地域を先導するようなジェンダー教育プログラムや、より充実したハラスメント対策のある大学づくり、男性もまじえた意見交換の機会についての意見や、周囲に上位職の女性教員が少ない環境で他の教員と協力関係を築く場合についてアドバイスを求める発言等があり、ランチをとりながら情報・意見交換が行われた。



○女性活躍推進異業種交流会「hirosaki smart project」

平成28年度から参画している「hirosaki smart project」に、平成30年度も引き続き参画した。hirosaki smart projectは、政府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、弘前市と損保ジャパン日本興亜株式会社が連携・協力し、女性活躍推進を目的として設立された異業種交流会事業の総称で、平成30年度は本学を含む弘前市に拠点を置く約20の企業・団体等が参画した。7月、9月、11月、2月に開かれた交流会に業務の一環として事務系女性職員4名が派遣された。

第1回

日 時：平成30年7月18日 17時30分～19時30分
会 場：ヒロロ4階 市民文化交流館ホール
テーマ：女性が活躍するためのビジネスマナー

第2回

日 時：平成30年9月12日 17時30分～19時30分
会 場：ヒロロ4階 市民文化交流館ホール
テーマ：hirosaki smart project参加企業の女性活躍推進・職場環境向上の取組

第3回

日 時：平成30年11月14日 17時30分～19時30分
会 場：ヒロロ4階 市民文化交流館ホール
テーマ：働く女性のライフステージと健康

第4回

日 時：平成31年2月6日 17時30分～19時30分
会 場：ヒロロ4階 市民文化交流館ホール
テーマ：女性リーダーのロールモデル

2. 両立支援

○子育て・介護中の研究者への研究支援員配置

支援期間：平成30年5月15日～平成31年3月31日

被支援者：8名（うち男性1名、子育て事由6、介護事由2）

平成24年度から、ライフイベント（出産・育児・介護）により研究活動やワーク・ライフ・バランスの維持が極めて困難な研究者を支援する目的から、研究支援員（本学学生）を配置している。これまでに本制度の支援を受けた研究者は、論文発表や学会発表、科学研究費助成事業の採択等の成果を上げてきた。

平成30年度は、人文社会科学部、教育学部、保健学研究科、医学部附属病院、理工学研究科の女性教員7名と男性教員1名に対して13名の研究支援員を約3,200時間配置した。

○託児利用料補助（学会参加時、休日勤務時、病児・病後児）

円滑で効率的な業務とワーク・ライフ・バランス支援のため、本学研究者が学会参加時に託児サービスを利用する場合、それから、職員が休日に勤務を命じられたため託児サービスを利用する場合や業務のため病児・病後児保育施設を利用した場合の利用料補助を実施した。

学会参加時の託児利用料補助 実績

利用者：4件（うち男性1名）

休日勤務時の託児利用料補助 実績

利用者：3件

病児・病後児保育費用補助 実績

利用者：28件（うち男性3名）

3. 次世代育成

○女子学生による理系女子進路相談会

日 時：平成30年8月8日 10時～15時

会 場：弘前大学総合教育棟 ロビー・ホール

来 場 者：51名（女子高校生48名、保護者・引率者3名）

協力学生：16名（教育学部5名、理工学部・研究科6名、農学生命科学部・研究科5名）

理系女性の裾野拡大を図る目的から、オープンキャンパスにあわせて「女子学生による理系女子のための進路相談会」を実施した。理系進学を考えている女子高校生の進路に関する疑問や不安等について、各学部から推薦された教育学部、理工学部・研究科、農学生命科学部・研究科の女子学生・大学院生が相談に応じた。

来場者アンケート（回答者48名）では、全員が「参考になった」「まあまあ参考になった」と評価し、「女性同士ということもあり相談しやすかった」「聞いたかった内容をとてもわかりやすく説明してくれて安心して受験に臨める」等の感想があった。

また、相談員として参加した学生からは「他学部の女子学生とも知り合えてよい機会だった」「高校生と話せて刺激になった」「また来年も協力したいと思った」との感想があり、協力学生に本事業に携わることで充実感が生まれたといえる。



○児童生徒を対象とした裾野拡大

児童生徒を対象とした裾野拡大の取組として、女子小学生を対象とした理科実験教室、女子高校生を対象とした科学イベントを支援した。

女子小学生対象理科実験教室「実験ガールズ2018」

日 時：平成30年7月12日 10時～12時

会 場：青森市男女共同参画プラザ 研修室

参加者：57名（女子小学生37名、保護者20名）

女子児童が理科実験の楽しさを経験することによって理系分野に関心を持つきっかけとなる場を提供し、理系女子の裾野拡大を図ることを目的として、女子小学生対象理科実験教室「実験ガールズ2018」（青森市男女共同参画プラザ主催）に協力した。本学女子学生が講師を務め、「種のしくみをまねしてみよう」「カミナリのひみつ」「くだもので電気をおこそう」をテーマとした実験が行われた。当日は、男女共同参画推進室から貸し出した本学女性研究者の研究等に関するポスターが会場に展示された。

科学イベント「女子高生工学系キャリアサポート」

日 時：平成30年12月8日～9日

会 場：弘前大学理工学部校舎

参加者：29名（うち女子高校生24名、引率者5名）

女子生徒が理科実験の楽しさを経験することによって理系分野に関心を持つきっかけとなる場を提供し、理系女子の裾野拡大を図ることを目的として、科学イベント「女子高生工学系キャリアサポート」（鳥飼宏之准教授（本学理工学研究科）主催、東北工学教育協会助成）に協賛した。

鳥飼宏之准教授が講師を務め、折り紙の燃焼実験と折り紙を用いた新しい技術の創造をテーマにグループワークが行われた。

事業終了後に実施したアンケートでは、「今回のキャリアサポート事業は楽しかったですか」という質問に対して75%が「大変楽しかった」、25%が「楽しかった」、「将来、エンジニアとして働くのも面白そうだと感じましたか」という質問に対して13%が「強く感じた」、58%が「感じた」、29%が「少し感じた」と評価した。「今まではずっと医学系しか考えていなかったが、この体験活動をとおして工学系にも興味を持つことができた」「問題の答えを実際に自分達で実験して探すというのが、面白かったし印象に残った」「活動を通して工学について興味を持ち、ものづくりをやりたいと思った」等の感想があった。

○女性研究者パネル・ポスター展

総合文化祭、青森県男女共同参画センター（アピオあおもり）でのアピオあおもり秋まつり、弘前市等が主催する市民ボランティア交流まつりにおいて、弘前大学の女性研究者の研究を紹介するパネル・ポスター「弘前大学で活躍する女性研究者たち」を展示した。

学内外の多様な来場者に対して本学の女性研究者による研究や男女共同参画推進の取組について発信することができた。来場者からは「いろいろな分野で活躍されている方がいることが分かった」「女性研究者の活躍の場が増えつつある中、弘前大学からもっと研究成果を含めて発信してほしいと思った」等の感想があった。

第18回弘前大学総合文化祭

日 時：平成30年10月20日～21日

会 場：弘前大学創立50周年記念会館 ロビー

来場者：150名

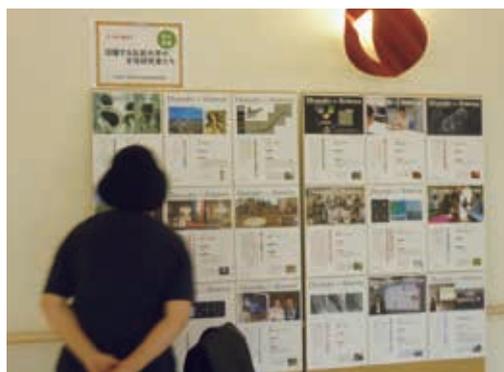


アピオあおもり秋まつり

日 時：平成30年11月11日 9時30分～15時45分

会 場：青森県男女共同参画センター

来場者：161名



第8回市民ボランティア交流まつり

日 時：平成31年2月10日 10時30分～14時30分

会 場：ヒロロスクエア

来場者：66名

4. 意識啓発・情報発信

○男女共同参画トップセミナー「優秀な人材確保のために—ダイバーシティの観点から」

日 時：平成30年 6月 4日 13時00分～14時30分

会 場：弘前大学創立50周年記念会館 岩木ホール

参加者：71名

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)の一環として、管理職を対象に女性教員の採用・昇任等をはじめとするダイバーシティ研究環境推進に関する意識啓発を図る目的から、セミナーを開催した。

講師には、大坪久子先生(日本大学薬学部薬学研究所 上席研究員)をお招きし、米国科学財団における女性研究者支援事業の流れや、無意識のバイアスの現れ方の事例・現れやすい状況、多様な人材を確保するための人事選考のあり方・好事例等について講演をいただいた。

参加者アンケート(回答者60名)では、37名が「大変参考になった」、19名が「参考になった」、1名が「思った内容と違った」(3名は無回答)と評価し、「無意識のバイアスという切り口からのダイバーシティ推進に向けたヒントは、新鮮な感じを受けた」「今後の採用や人事の異動や交流、社員の評価の際に役立てていきたい」、「女性研究者の一人として『データに基づいた適切な評価』に貢献して後続につなげられるようにしなければと気が引きしまった」等の感想があった。



○北東北国立3大学連携推進会議連携協議会男女共同参画シンポジウム

日 時：平成30年 9月 21日 14時～16時

会 場：弘前大学創立60周年記念会館 八甲田ホール

参加者：58名

平成22年から本学、秋田大学、岩手大学が毎年持ち回りで北東北国立3大学連携推進会議連携協議会男女共同参画シンポジウムを開催してきたが、平成30年度は弘前大学がホストとなり「大学のダイバーシティ推進と人材育成—産業界からの期待」をテーマに実施した。前半の基調講演の講師には経済産業省東北経済産業局長の相楽希美氏をお迎えし、経済産業省の取組を踏まえた女性活躍推進やダイバーシティ経営の推進等についてお話をいただいた。



後半は、本学、秋田大学、岩手大学から、各大学の取組について報告があり、本学については藤崎浩

幸男女共同参画推進室副室長が発表した。続くパネルディスカッションでは、3大学の理事がパネリストを、本学の安川あけみ男女共同参画推進室長がモデレーターを務め、ダイバーシティ推進において大学が果たす役割や各大学が持つ地域ネットワーク間の連携の可能性等について、意見交換が行われた。

最後に相樂氏から「この10年の3大学の連携は、北東北の大学の男女共同参画にとって貴重な10年だったと思う。環境変化に応じた形で今後も3県で情報共有をしつつ男女共同参画を先に進めてもらえれば非常に心強い」とコメントが述べられた。

参加者アンケート（回答者39名）では、16名が「とても有意義だった」、22名が「有意義だった」、1名が「思った内容と違った」と評価し、「取組や現状を知ることができてよかった」「ネットワークの考え方について3大学の意見の相違を聞くことができたのは、興味深く、また、考えさせられた」「『非常に難しい問題』として男女共同参画をとりあげている印象だった。男性にも当事者意識を持っていただけるようになれば」「パネルディスカッションは、障害者や外国人、高齢者などもっとダイバーシティとして深みのある内容を」等の感想があった。



○さんかくカフェ

平成25年度から、性別にかかわらず働きやすく学びやすい弘前大学の実現を目指して、男女共同参画推進に関心のある職員や学生が意見・情報交換を行う場を提供するとともに、参加者同士のネットワークの構築支援を目的として「さんかくカフェ」を開催してきた。平成30年度は、下記のとおり開催した。第1回には、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）代表機関である岩手大学の男女共同参画推進室から、佐藤淑恵ワーク・ライフ・バランス/キャリア相談員にも参加いただいた。参加者アンケートでは、第1回（回答者7名）、第2回（回答者19名）について、無回答を除いて全ての回答者が「大変有意義だった」「やや有意義だった」と評価した。「所属機関の長や周囲の理解が重要であることに気づいた」「今日出た話題がもっと多くの教員と共有できるとよい。皆さんの理解が得られる環境に少しでも近づくとよい」、「これからも国際間のこのような問題共有の機会があるとよい」「なかなか外国の話をしきくことができないので、日本と比較した話をしきくことができてよかった」等の感想があった。



第1回「男性の育児・介護」

日 時：平成30年11月29日 17時～18時

会 場：弘前大学保健学研究科校舎 大会議室

参加者：11名

第2回「グローバルな視点からみた男女共同参画」

日 時：平成30年12月11日 12時～13時

会 場：弘前大学総合教育棟 イングリッシュ・ラウンジ

参加者：26名

○学生を対象としたワークショップ

「ジェンダー・ダイバーシティ視点を踏まえたキャリアデザインワークショップ」

日 時：平成30年12月13日 16時～15時50分

会 場：弘前大学総合教育棟 キャリアセンターセミナー室

参加者：15名（うち学生7名、職員8名）

本学の学生が、就職活動や就職後のキャリアデザインに関する期待や不安などについて、男女共同参画やダイバーシティの視点を踏まえて気軽に話し合うことのできる場を提供することを目的として、ワークショップを開催した。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)連携機関のひとつである株式会社ミクニの秦彩花さん(コーポレート本部人事室)と小野寺佑介さん(コーポレート本部営業企画部門)、本学の橋本美佐子学生課長からの話題提供に続き、グループディスカッションが行われた。

すべての参加学生が「とても参考になった」「参考になった」と本セミナーを評価し、「今回のセミナーはキャリアについて考えるとても良い機会になった。今後もこういった企業の方と、直接お話ができる機会やセミナーがあるとよい」「企業に就職するときに今まで気にしていなかった視点がでて、その視点は企業を決める上で大切だと思った」「このセミナーのグループでの話し合いで、女性の社会進出の現状や、これから就職活動をする際にどういった事を大事にして行動していけば良いかなどを学ぶことがた」等の感想があった。



○次世代育成サポーター養成講座への学生派遣

日 時：平成30年9月29日

会 場：岩手大学学生センター A棟 G23講義室

参加者：2名（学生1名、引率者1名）

本学の学生への男女共同参画・キャリア形成支援教育・学修機会の充実を図ることを目的として、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)代表機関の岩手大学で開講された「次世代育成サポーター養成講座」に、参加を希望した本学医学部の男子学生1名を派遣した。当該学生は、事前にDVD学習を行った上で、当日は、岩手大学の学生や地域の方々とともに、乳幼児の発達・心理・食育・

地域の子育て支援等の子どもと楽しくかかわるために必要な知識やスキルを学んだ。後日レポートを提出して受講を完了した後、平成30年11月29日に、保健学研究科大会議室において、安川あけみ室長から受講完了証が授与された。この学生は、既出の第1回「さんかくカフェ」に子連れで参加した職員の子どもたちの見守りに従事した。



○「大学等における男女共同参画推進セミナー」等への職員派遣

ダイバーシティ研究環境推進や男女共同参画推進のため職員の意識啓発や最新の取組動向に係る情報収集を目的として、男女共同参画推進室員を学外でのシンポジウムや研修等に派遣した。派遣された室員は、男女共同参画推進委員会において参加報告を行い学内でのいっそうの意識啓発を図るとともに、補助事業連携機関とも情報を共有した。

派遣先：第16回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「今なお男女共同参画をはばむもの 新たな次のステップへ」

(平成30年10月13日開催、建築会館)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成30年11月7日開催）

派遣先：福島県立医科大学男女共同参画講演会

(平成30年10月19日開催、福島県立医科大学講堂)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成30年11月7日開催）

派遣先：おおいた連携ダイバーシティ推進会議主催シンポジウム「大分のダイバーシティ推進…次の一歩」

(平成30年10月29日開催、レンブラントホテル大分)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成30年11月7日開催）

派遣先：国立女性教育会館主催NWECアニバーサリーウィーク

(平成30年11月13日～14日開催、国立女性教育会館)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成30年12月5日開催）

派遣先：新潟大学・株式会社タケショー主催補助事業シンポジウム「産学で進める働き方改革、女性活躍推進、人材育成」

(平成30年12月10日開催、新潟大学附属中央図書館ライブラリーホール)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成31年2月6日開催）

派遣先：彩の国女性研究者ネットワークシンポジウム

(平成30年12月21日開催、埼玉大学総合研究棟シアター教室)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成31年2月6日開催）

派遣先：順天堂大学主催第8回女性研究者研究活動支援シンポジウム

(平成30年12月22日開催、順天堂大学センチュリータワー)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成31年2月6日開催）

派遣先：第11回奈良先端大男女共同参画推進セミナー

(平成30年12月27日開催、奈良先端科学技術大学院大学情報科学領域棟L1講義室)

参加者：安川あけみ室長

報告：男女共同参画推進委員会（平成31年2月6日開催）

派遣先：四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクトキックオフシンポジウム2018

(平成31年1月22日開催、徳島大学藤井節郎記念医科学センター藤井節郎記念ホール)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成31年2月6日開催）

派遣先：人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）公開シンポジウム

「なぜできない？ジェンダー平等 人文社会科学系学協会 男女共同参画の実態と課題」

(平成31年2月9日開催、日本学術会議講堂)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成31年3月6日開催）

派遣先：全国ダイバーシティネットワーク組織第1回東北ブロック勉強会

(平成31年3月1日開催、東北大学第二会議室)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成31年3月6日開催）

派遣先：3機関合同シンポジウム「ネットワークによる山形のダイバーシティ推進～現状と今後の展開」

(平成31年3月8日開催、山形大学小白川キャンパス法人本部 第1会議室)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会（平成31年4月予定）

○あおもり女性活躍推進協議会

平成29年7月、女性活躍推進法に基づき、青森県が中心となり「あおもり女性活躍推進協議会」が設置された。本協議会は、「働く意欲のある女性が働き続け、その能力を十分に発揮できる環境整備を関係団体が連携・協力して進める」ことを目的とするもので、本学を含む青森県内の19機関からなる。平成30年度、協議会には安川あけみ男女共同参画推進室長が、幹事会（協議会の円滑な運営や目的達成に向けた具体的な検討を行うため構成団体の実務担当者等で構成されるもの）には山下梓室員が委員として参加し、本学の男女共同参画推進の取組に関する情報発信や、他の構成機関との情報・意見交換を行った。

○ホームページ、さんかくつうしん

学内外への情報発信とそれを通じた男女共同参画推進の意識啓発を図る目的から、平成30年度も随時男女共同参画推進室ホームページを更新するとともに男女共同参画推進室ニュースレター「さんかくつうしん」を9月と3月に発行した。また、岩手大学が編集するダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）についても6月、9月、12月、3月に本学の全職員に配付した。



資料 平成30年度 男女共同参画推進室 主な事業一覧

月	事業内容	会議等
4月	1日 平成30年度女性教員採用促進事業（女性教員基盤整備等スタートアップ経費支援）開始 17日 平成30年度プロモーションメンター制度（試行）開始 病児・病後児及び休日勤務時の託児利用料補助（試行）申請受付開始 学会参加時の託児利用料補助申請受付開始	5日 第1回男女共同参画推進委員会（以下、委員会） 26日 男女共同参画推進室運営会議（以下、運営会議）
5月	15日 子育て・介護中の研究者への研究支援員配置開始	9日 補助事業連携機関担当者ミーティング（於：岩手大学） 10日 第2回委員会 24日 第4回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議（於：岩手大学） 31日 運営会議
6月	4日 男女共同参画トップセミナー開催	4日 あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議 7日 第3回委員会 第8回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会（於：岩手大学） 15日 第1回あおもり女性活躍推進協議会・第1回あおもり女性活躍推進協議会幹事会（於：青森市） 28日 運営会議
7月	2日 平成30年度女性研究者を研究代表者とする共同研究支援事業開始 18日 平成30年度第1回女性活躍推進異業種交流会参加 21日 女子小学生対象理科実験教室（共催事業）開催	5日 第4回委員会 26日 運営会議
8月	8日 女子学生による理系女子進路相談会開催	1日 平成30年度北東北大学連携男女共同参画推進連絡会議 2日 第5回委員会
9月	10日 「さんかくつうしん」Vol.19発行 12日 第2回女性活躍推進異業種交流会参加 19日 北東北女性研究者研究・交流フェア（於：岩手県盛岡市）開催 21日 北東北国立3大学男女共同参画シンポジウム 29日 次世代育成サポーター養成講座（於：岩手大学）への学生派遣	27日 運営会議
10月	21～22日 弘前大学総合文化祭での女性研究者パネル展実施	3日 第6回委員会 17日 第9回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会（於：岩手大学） 30日 科学技術人材育成費補助事業中間評価面接審査 31日 運営会議
11月	11日 アピオあおもり秋まつりでの女性研究者パネル展実施 14日 第3回女性活躍推進異業種交流会参加 29日 平成30年度第1回さんかくカフェ開催 30日 補助事業中間総括シンポジウム（於：岩手大学）	7日 第7回委員会 28日 運営会議

12月	4日 女性研究者懇談会開催 8～9日 科学イベント「女子高生工学系キャリアサポート」(協賛事業)開催 11日 第2回さんかくカフェ開催 13日 学生対象キャリデザインワークショップ	5日 第8回委員会
1月	31日 第1回研究リーダー力向上支援セミナー	16日 第2回あおもり女性活躍推進協議会幹事会(於:青森市) 30日 運営会議
2月	10日 第8回市民ボランティア交流まつりでの女性研究者パネル展実施 13日 第4回女性活躍推進異業種交流会参加 20日 第2回研究リーダー力向上支援セミナー	6日 第9回委員会 22日 第10回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会(於:岩手大学) 27日 運営会議
3月	「さんかくつうしん」Vol.20発行	6日 第10回委員会 19日 補助事業アドバイザーボード(於:岩手大学) 27日 運営会議

平成30年度
弘前大学男女共同参画推進室
事業報告書

発行 平成31年 3月31日

発行所 弘前大学男女共同参画推進室

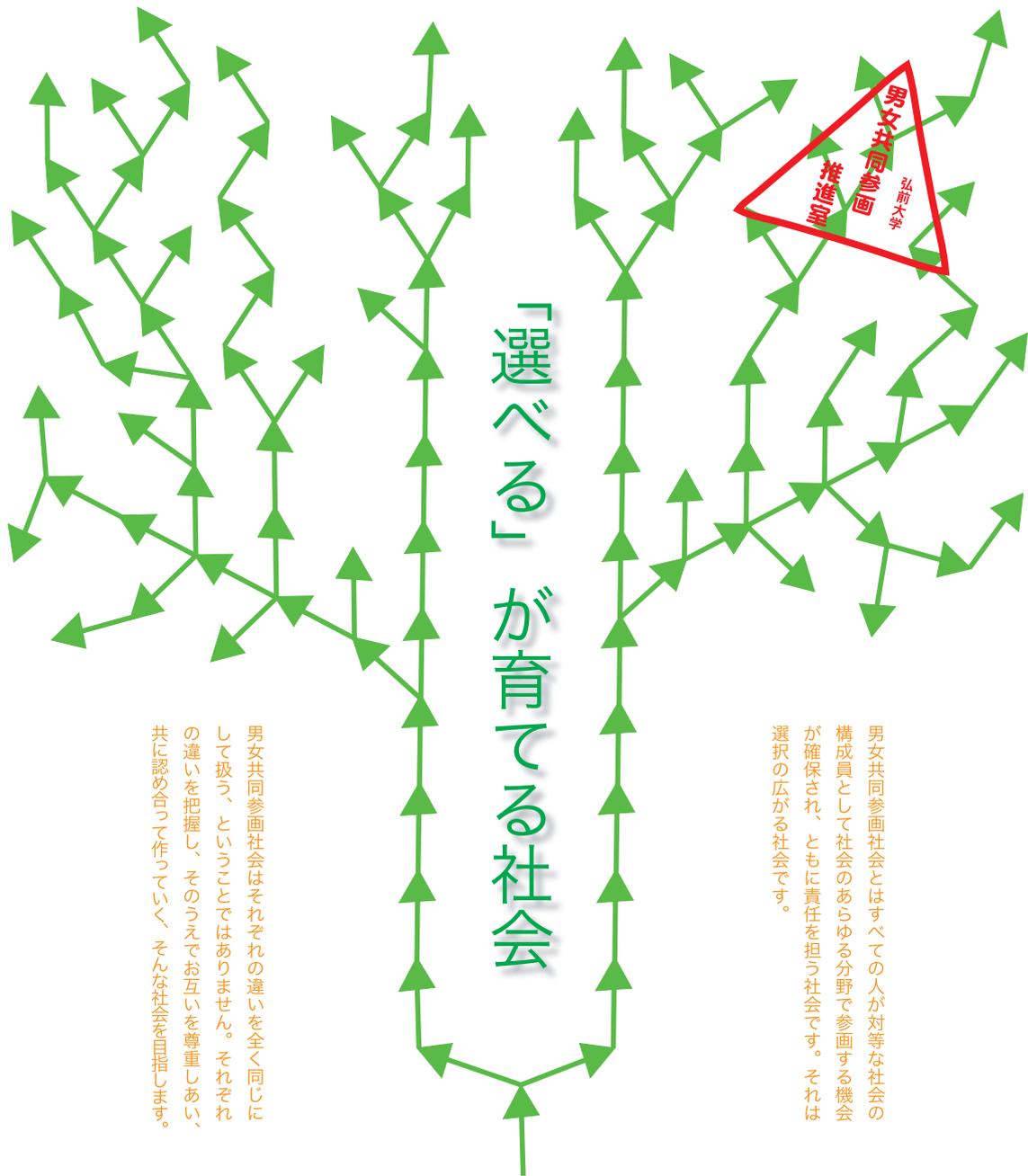
〒036-8560 青森県弘前市文京町 1

電話 0172(39)3888

FAX 0172(39)3889

Email : equality@hirosaki-u.ac.jp

URL : <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>



「選べる」が育てる社会

男女共同参画社会とはすべての人が対等な社会の構成員として社会のあらゆる分野で参画する機会が確保され、ともに責任を担う社会です。それは選択の広がる社会です。

男女共同参画社会はそれぞれの違いを全く同じにして扱う、ということではありません。それぞれの違いを把握し、そのうえでお互いを尊重しあい、共に認め合って作っていく、そんな社会を目指します。

弘前大学男女共同参画推進室

〒036-8560 青森県弘前市文京町1
電話 0172 (39) 3888 FAX 0172 (39) 3889
Email: equality@hirosaki-u.ac.jp
URL: <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>